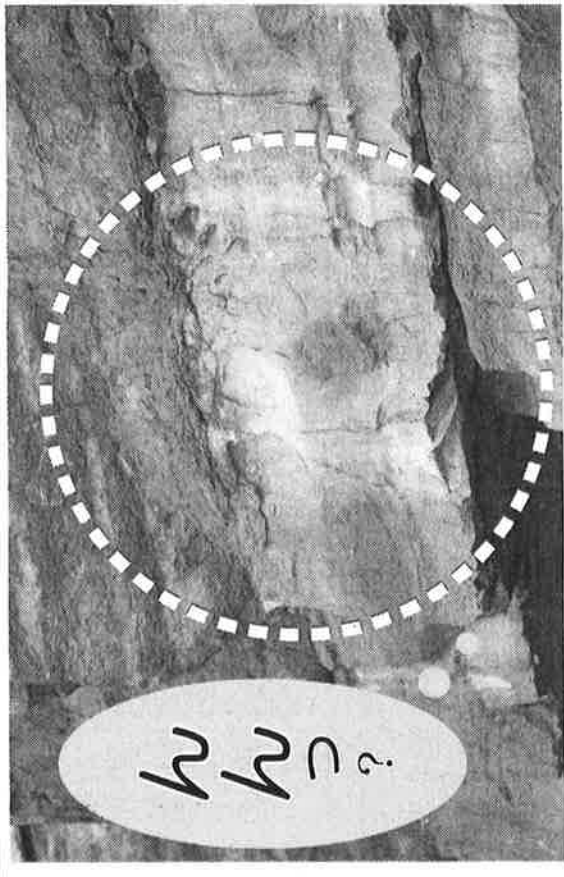


くっきりとしたしま模様が美しい須佐ホルンフェルス。この断崖のどこかに「サル顔」が…。



しま模様の断崖に刻まれたサル顔（に見えませんか？）＝萩市

見 見  
え え  
る ザ  
か ル  
… か

## 断崖に「顔」?

# サルを 探せ!

萩・須佐ホルンフェルス

その「サル」はまばたきもせず、ただじっと日本海の荒波を見つめている。萩市の須佐湾にそびえる黒色と灰色のしま模様の断崖「須佐ホルンフェルス」。その大きなしま模様の中に、ここそりとサル顔が隠れていることは知る人ぞ知る。

ホルンフェルスは海底に降り積もった泥岩や砂岩がマグマの熱作用で変成したもので、約1400万年前にできた。断崖の岩肌はところどころが丸くぼんやり、白や灰色などに変色して微妙なコントラストがつき、さまざまな模様を刻んでいる。その中に一つ、くつきりとしたサル顔、それもまるでニホンサルの顔のように見える部分がある。

数年前に地元の「観光ウツプロジェクト」を探る際に発見。パンフレット「須佐お宝読本」に「ホルンフェルスのヒミツ」として掲載され、ネットでも話題に。地元の須佐観光協会によると、うわさを聞きつけてやって来る観光客も多いという。遊歩道を散策しながら岩場に向かい、緩やかな岩の坂を下まで降りていけば見ることができるが、滑らないよう足元に注意が必要。

同協会の山本徹事務局長(55)は「今年はある年。断崖の中にくつきりと浮かぶサル顔を見つければ、どうぞ須佐に来てください」とPRしている。